

# 日本化薬グループの CSRレポート 2015

ダイジェスト



世界的すきま発想。

 日本化薬

## 編集方針

本レポートでは、日本化薬グループのCSRに対する考え方や、3か年中期事業計画 **Challenge 100A!** と連動させた中期CSRアクションプラン(2013～2015年度)のうち、2014年度のCSR活動に関する情報をダイジェストとして報告します。グループ経営の重要性が高まったことや、グローバル化の進展に伴い、グループ会社や海外拠点の情報など、より広い範囲のCSR活動を紹介しています。また、ウェブサイト「CSR情報」では、環境に関する詳細なデータや、ダイジェスト版に記載できなかった記事など、より多くの情報を開示するよう努めています。

●報告対象期間：2014年4月1日～2015年3月31日

●報告対象組織：日本化薬および国内・海外のグループ会社の取り組みを含みます。ただし、環境面は日本化薬のみです。

## 目次

編集方針	02
トップメッセージ	03
<b>特集</b> バリューチェーンを通じた日本化薬グループの「安心・安全」への取り組み	04
中期CSRアクションプラン	06
基盤となるCSR活動	
CSR経営の考え方	08
コーポレート・ガバナンス	09
日本化薬グループ会社のCSRコミットメント	10
経済的責任を果たすCSR活動	
豊かな生活を目指した日本化薬グループの現在の製品および未来の技術や製品	12
日本化薬グループの事業	14
社会的責任を果たすCSR活動	
お客様への取り組み/お取引先・株主への取り組み/社会への取り組み	16
従業員への取り組み	18
環境責任を果たすCSR活動	
環境安全衛生品質マネジメント	20
エネルギー・マテリアル・バランス	21
環境・安全・品質に関する日本化薬グループ会社の活動事例	22
グループ概要・財務関連数値	23

## ウェブサイトもご覧ください

本レポートの内容および各種環境データなどの詳細情報はウェブサイト上に掲載しています。また、最新の関連ニュースも随時更新しています。

### CSR情報へのアクセス方法

①日本化薬のウェブサイトへアクセス

②トップページの「CSR情報」をクリック



日本化薬CSR情報  
ウェブサイト  
<http://www.nipponkayaku.co.jp/csr/>



## 表紙写真について



### タイトル

「干し草の俵を押そうとする娘」

### 撮影者

INDET SAFETY SYSTEMS a.s.  
Ms. Petra Juřínková  
(ペトラ ユジンコヴァー)

### 撮影場所

フセチン チェコ共和国

### 撮影者コメント

干し草の俵はチェコでは秋の収穫の象徴です。俵を見つけた娘が押してみようと頑張っています。



# トップメッセージ

**KAYAKU spirit** を実現するための企業活動がCSR経営の実践につながるという意識をグループ全体で共有し、役員・従業員一体となって事業に取り組みます。



本年6月25日付で代表取締役社長に就任いたしました鈴木政信です。CSRレポート2015の発行にあたりご挨拶申し上げます。

日本化薬グループでは、**KAYAKU spirit**「最良の製品を不断の進歩と良心の結合により社会に提供し続けること」を、わたしたち一人一人のあるべき姿、企業ビジョンと位置づけております。この**KAYAKU spirit**は半世紀以上前に制定された社是を元にしており、わたしたちの諸先輩から受け継がれ、時間をかけて組織内に定着してきた考え方であり、当社グループのCSR経営の基盤となっております。わたしたちは、**KAYAKU spirit**を実現するための企業活動がCSR経営の実践につながるという意識をグループ全体

で共有し、役員・従業員一体となって事業に取り組んでおります。

安全操業・コンプライアンス・環境への配慮を最優先事項として徹底し、高い倫理観をもって企業活動を行うことによって、すべてのステークホルダーの信頼に応え、社会から必要とされる存在であるよう努めてまいります。当社グループは2016年に創立100周年を迎えます。現在、この100周年を目指した3か年中期事業計画“**Challenge 100A!**”（2013年度～2015年度）が進行しておりますが、CSR経営は当社のあらゆる事業の根幹に位置づけられるものと考えております。

あらゆる事業活動のボーダレス化が進み、国際的な競争が激化するなど、事業環境がますますグローバル化する中、当社グループの海外活動も拡大し、現在9カ国で機能化学品・自動車安全部品・医薬品・農薬など多様な事業を営んでおります。海外従業員比率も40%を超え、ビジネスにおける海外グループ会社の重要度もますます高まる中、わたしたちの社会的責任も世界的に大きく拡大していると認識しております。

本年のCSRレポートでは、製造業を営む当社グループにとって最も重要な「安心・安全」を実現するための取り組みを特集としてご紹介するとともに、「CSR調達」や「ダイバーシティ確保」の取り組みなどを掲載しております。また、海外グループ会社の記事を増やすとともに、昨年より開始した「日本化薬グループ会社のCSRコミットメント」については非連結子会社にまで拡大することで、グループ全体でCSR経営に取り組んでいることが伝わるようにいたしました。ダイジェスト版としての本レポートと詳細版として公開いたしますウェブサイトをあわせてご覧いただき、当社グループのCSR活動へのご理解をいただけますようお願いいたします。新しい体制のもとCSR経営の実現に向け精励いたしますので、ステークホルダーの皆様におかれましても一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長

鈴木政信

# バリューチェーンを通じた 日本化薬グループの 「安心・安全」への取り組み

## つくる時から、 つかう時まで 「安心・安全」

日本化薬グループでは、新製品開発および原材料購入から製品出荷に至るまでの環境安全衛生に関して、バリューチェーンの各段階で安全審査等によりリスクを洗い出し、対策を重ね、安全な企業活動に努めています。

この安全審査は、HAZOP<sup>\*1</sup>やRAT<sup>\*2</sup>手法などのリスク解析手法を活用し、自社製造ノウハウや他社を含めた過去のトラブル事例を照合しながら、社内専門家を交えて議論・確認し、作業員保護や安全確保はもちろん、環境影響にも配慮します。

研究開発段階では、開発ステージアップの段階に応じて安全審査を行い、原材料、中間体、製品、さらには廃棄物の安全性を確保するよう努めています。安全確保が難しい場合には、製品開発を断念することもあります。

工場から研究所への技術移管に際しても、安全審査を実施し、実生産に必要な安全対策を実施し、安全な作業方法を取り決めていきます。

また、工場で安定生産している製品であっても、長期停止後の再立ち上げ時や、原材料、製造方法、廃棄物処理等の変更、または設備の改造・更新の際には、安全審査を行い、必要な安全教育を実施して、危険の芽を事前に摘み取る取り組みを行っています。



### 研究 開発

#### 研究所の安全管理

日本化薬グループでは、全社に環境安全衛生方針、目標を徹底し取り組んでいます。研究所では、安全管理のために、次のことを徹底しています。

- ①規模は小さいものの非定常作業の連続なので、日頃から所員間のコミュニケーションを活発にして、安全意識の高揚を図る。
- ②基礎研究から製品開発研究までの過程の中で、実際の製造現場へ展開した際の異常や事故を想定した対応をする。
- ③化学物質を適切に管理し、基礎知識から反応機構までの知識・経験を技術継承する。

これらの取り組みが日本化薬グループ全体の事故の未然防止に結びつくとともに、ユーザーが製品を取扱う際の安全配慮および環境配慮につながります。

#### 研究所の連続無災害日数

(2015年3月31日現在)

機能化学品 研究所	15,119日
医薬 研究所	10,897日
アグロ 研究所	9,190日
セイフティ システムズ 開発研究所	3,408日



### 原材料

#### サプライヤーとの協働

2015年4月、ウェブサイト「CSR調達」のページを設け、購買基本理念、購買基本方針と「CSR調達ガイドブック」を公開しました。「CSR調達ガイドブック」は購買活動にあたってサプライヤーの皆様へCSR調達に関する当社の考え方をお伝えするものです。

ステークホルダーは、企業に対し社会的責任について自覚を持って活動することを求めています。CSR調達ガイドブックで、サプライヤーの皆様へ当社の考えるCSRについてご理解をいただくとともにサプライヤーの皆様と一緒にCSRに取り組んでいければと考えています。また、当社は従来よりCSR経営を実践しており、CSR調達は当社のCSR経営の一翼を担うものです。法令を遵守し人権・環境に十分配慮しながら購買活動を行ないサプライヤーの皆様とともにCSRを実践し、最良の製品・サービスを提供したいと考えています。

#### 世界各国から 原材料を調達



物流

生産

化学物質管理室の取り組み

「化学品の分類および表示に関する世界調和システム(GHS※3)」は、2003年に国連から発行されて以来、世界各国・地域の化学品法規制や規格の中に広く取り入れられてきました。そして、世界各国のお客様に現地語でGHSに基づいた危険有害性の分類情報を正確に安全データシート(SDS※4)とラベルで提供することが化学品製造者に求められるようになってきました。機能化学品事業本部では、豊富な対訳、各国法規データ、物性・毒性データを装備したSDS作成システム(MSDgen)を導入し、各国・地域の法規制に適合したラベル、SDSを現地語で提供しています。また、SDSはデータベースで提供履歴を管理して、常に最新の情報を提供することを心がけています。

医薬品情報センターの取り組み

医薬品情報センターでは、抗がん薬・自己免疫疾患治療薬・血管内塞栓材など当社の医療用医薬品・医療機器に関わるさまざまな問い合わせを患者様や医療関係の皆様からそれぞれ専用のフリーダイヤルでいただいています。日本化薬が提供するすべての製品がお客様にとって「最良の製品」となるよう、センター員はお問い合わせ一つひとつに対して、的確に丁寧に回答することを心がけ、わたしたちの回答がお客様の期待にお応えしているかアンケートを行い改善しています。また、医療施設へ訪問する医薬情報担当者や連携し患者様のお役にたてる情報を提供しよう努めるとともに、お客様からのご要望やご意見を社内の担当部署に報告・提案していきます。医薬品情報センターでは、「すべては適正使用の推進と顧客満足の上昇のために」をスローガンとし、より良い医療に貢献してまいります。

農薬の物流保安対策

土壌くん蒸剤のクロルピクリンは、医薬用外劇物であり、臭気や刺激性が強く、取り扱いには細心の注意を要する物質です。販売会社は当社を含めて国内に3社あり、各社で専門の配送業者や倉庫業者を手配し、販売を行っています。

クロルピクリンの物流過程で事故・災害が発生した場合、漏えいの危険があるため、当事者の安全確保に加え、現場近隣に対しても被害拡大防止の保安対策が必要かつ重要となります。事故・災害発生時の連絡体制や保安対策隊の出動等は、3社の協力体制を敷き、全国各地での事故・災害に備えています。

物流事故発生時には3社とクロルピクリン工業会の協力体制の下、緊急連絡網を通じた消防・保健所・警察等への通報、対策隊の編成、最短時間で現場到着可能な緊急応援隊の出動要請といった保安対策を行います。このように、取り扱う物質の危険度に対応した物流保安対策を講じています。

安全かつ効率的な生産

火薬を応用した自動車安全部品の生産は、長い歴史の中で培われてきた火薬の安全を重視した生産工程と、効率を重視する自動車部品の生産工程という二つの全く異なる分野の技術を融合する必要がありました。

姫路工場では、15年ほど前から効率的な自動車生産方式の研究に取り組んできましたが、その導入は火薬の生産工程を含まない一部の製造ラインに留まり、拡がることはありませんでした。

その後、2013年に開始したグローバル製造会議にて検討を始めるとともに、火薬工程も含めた効率的生産方法の確立の気運が高まり始めました。それぞれの工程のつながりを全体最適で考えていく事により、結果として安全を軽視せず、効率を落とさず、改善を進めていくことができるのではないかという、言わば発想の転換でした。



クロルピクリン物流対策フロー



※1 【HAZOP】Hazard and Operability Studies  
 ※2 【RAT】Risk Analysis Tool

※3 【GHS】Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals  
 ※4 【SDS】Safety Data Sheet

# 中期CSRアクションプラン

分類	No.	Challenge 100A ! 中期CSRアクションプラン	2014年度アクションプランに対する取り組み結果	
基盤	①	従業員のCSRとコンプライアンスに対する意識を向上させる	CSR研修：集合研修16回 412名 国内コンプライアンス研修：集合研修50回 3,449名 海外コンプライアンス研修：集合研修(駐在員・幹部対象中国ほか)11回 138名 職場単位のコンプライアンス研修：研修資料を毎月定期的に配信し、職場単位の研修に活用	
	②	有事発生時においても事業継続性を確保する	BCPマニュアル改訂中。セーフティシステムズ事業本部対象に2014年12月訓練実施 データセンター免震棟移設が終わりインフラ整備完了(2014年5月) ITマニュアル作成は予定より遅れ2015年5月完了予定	
社会的責任	③	化学物質に関する規制を遵守する	化学物質規制に関する社内教育：ベース資料の充実、法令改正に合わせた改訂実施 SDS <sup>*1</sup> による情報提供：各国のGHS導入スケジュールに合わせた対応を先行	
	④	がんとがん関連分野における研究・開発・製品情報提供により社会に貢献し続ける	血管内治療：マイクロファイバの使用要件を満たす講習会の開催を全国各地で実施 抗がん薬内包高分子ミセル：NK105の臨床試験は順調に進捗 抗体バイオ後続品の発売に合わせ、医薬品情報センターの更なる充実化を推進	
	⑤	従業員の火薬類取り扱いに関するスキル・知識の習熟を徹底する	受講対象者16名に対し3回の講習を実施	
	⑥	農業安全使用のための現地指導を継続実施する	説明会を各担当者が担当地域で適宜実施 本件に関して誤使用による重大な違反や事故：0件	
	⑦	サプライヤーと連携したCSR調達を推進する	新年度から実施するための準備完了	
	⑧	重大事故災害による環境影響や労働災害を未然に防止する	休業災害：1件、無傷害事故：1件、不休業災害：6件、MR事故率：12.7%	
	⑨	顧客苦情・品質工程異常を低減する	重大顧客クレーム <sup>**2</sup> ：2件、重大工程異常 <sup>**2</sup> ：2件 プロジェクト活動により日本化薬版「なぜなぜ分析マニュアル」を作成し、各工場内へ展開	
	⑩	地域社会とのコミュニケーションを行う	「あすなろの家」2014年利用家族数：114家族(稼働率51%) ピンクリボン活動：新たに2カ所(日化東京・日化福山)追加し、計8事業場が啓発活動実施 工場祭・地域との懇談会等：例年通り継続実施	
	⑪	ステークホルダーに対して適時適切な情報発信を行う	グローバルサイト：英語・中国語のウェブサイトオープン 投資家：ウェブサイトとメールを連動させ、決算・リリース関連のメール配信を開始 CSRレポートをタイムリーに発行 社内報：2016年の創立100周年に向け、会社の歴史や旧従業員の話を掲載 グループ会計方針の浸透 国内子会社経理実務担当者向け研修会の開催	
	⑫	多様な人材を活用・育成する	障がい者の法定雇用率：2.0%達成(50名) 女性管理職：全管理職に占める割合は4.7%に増加(前年4.2%) 外国人の登用：11人(国内・単体) 海外赴任家族も含めたサポート教育の実施	
	⑬	従業員の安全と健康に配慮し、ワーク・ライフ・バランスのとれた労働環境を提供する	メンタルヘルス研修：3か年計画受講率ほぼ100%達成 健康診断：受診率100%達成 男性の育児休業者：3名(対象者の30%)、女性の育児休業者100%	
	⑭	人権とプライバシーを守る	内部通報制度の周知：コンプライアンス研修時に説明実施、新たに社内ポスターを掲示 通報相談：11件に適切に対応	
	環境責任	⑮	グリーン調達比率の向上を図る	間接材グリーン購入比率：7%、前年度8%から微減
		⑯	環境へ配慮し、中期環境目標を達成する	化学物質排出量の削減：データは本冊子(P.21)、ウェブサイトに開示
⑰		廃水処理技術を向上させ、環境規制に対応する	グループ会社を含め既存技術改善と新規テーマに取り組み、特定の重金属の除去について技術を確立	
⑱	より一層のエネルギー低消費型企業を目指す	エネルギー使用量：対前年98.5%、エネルギー原単位：対前年103.8%、中長期平均98.2% 省エネ推進のため工場省エネ点検実施		
経済的責任	⑲	持続可能な企業グループとして安定的な収益を確保する	全てのグループ会社に制度を導入、一部のグループ会社で本制度に基づく評価を開始 在庫量：目標以上に増加、遊休不動産：複数の案件で検討進行	
	⑳	環境・省エネルギーに貢献する製品を上市する	高性能熱伝導接着シート：市場投入に遅れ 光制御フィルム：車載向けとして性能試験に投入	
	㉑	経済負担を軽減する高品質な医薬品を提供する	バイオ後続品：日本初の抗体バイオ後続品を2014年11月上市 ジェネリック抗がん薬：がん関連製剤を3剤上市	
	㉒	独自技術を応用した安価自動車用安全デバイスをグローバルに拡大し、人命保護に貢献する	マレーシア拠点の生産設備設置完了、中国・メキシコ拠点における生産設備増強を実施	
	㉓	ものづくり技術の継承により生産工場を維持存続する	各種社内発表会や工場関係担当者会議の開催、及び若手向け教育は計画通りに実施 省エネ教育を100名以上に実施	
	㉔	持続的に研究テーマを創生・遂行する	新制度をグループ会社を含む各研究部署に紹介、9件の提案から3件を採択	

ウェブサイトに ISO26000 の社会的責任の中核主題及び課題との対照表を掲載します。

日本化薬グループでは、2013年4月より、2016年の創立100周年を目指した新たな3カ年中期事業計画 **Challenge 100A!** (Challenge toward our 100th Anniversary)を開始しました。これに伴い、**Challenge 100A!** 期間中に取り組む中期CSRアクションプランを設定しました。本中期CSRアクションプランを全役員・従業員に徹底し、CSR経営への意識を高めるとともに、全員一体となった取り組みを進めてまいります。

2014年度評価	2015年度アクションプラン
○	グループ会社を含めたコンプライアンス・CSR研修の継続実施
○	各事業部のBCPマニュアルの見直しを行い、より実効性のあるBCPマニュアルを整備
○	ITマニュアルに基づく訓練により有事発生時における事業継続性を担保
○	化学物質規制に関する社内教育プログラムの充実 各国基準に適合したSDSによるお客様への情報提供(引き続き各国のGHS導入に確実に対応)
◎	抗がん薬内包高分子ミセル開発推進
◎	日本初の抗体バイオ後続品治療の提供
○	火薬安全維持推進チームによる階層別教育プログラムの実践
○	農薬安全使用のための現地指導を継続実施
○	サプライヤー向けにウェブサイト等を介してCSR調達実施に向けた啓発を開始 CSR調達運用をグループ会社へ展開
×	重大事故災害、休業災害、無傷害事故：0件、不休業災害：5件以下、医薬MR業務上及び 通勤途上自動車事故率：4%以下
×	重大顧客クレーム：0件、重大工程異常：0件 なぜなぜ分析の実施による職場力の強化とグループ会社への展開
○	「あすなるの家」を引き続き維持運営
○	ピンクリボン活動・工場祭・地域との懇談会・地域清掃活動・公開講座の継続実施
◎	ウェブサイト：掲載内容の充実 投資家：コミュニケーションの充実 社内報：連帯感の醸成
○	IFRS(国際財務報告基準)導入に向けての準備 BEPS <sup>※3</sup> 行動計画(特に移転価格関連)への対応
○	各目標については継続 女性管理職登用比率の目標値公表
○	各目標については継続
○	メンタルヘルス研修：3カ年計画1年目受講計画の達成、健康診断：受診率100% ストレスチェック制度：体制の整備
○	次世代育成支援対策推進法の趣旨に則り、行動計画の策定・外部公表の実施
○	通報・相談窓口の周知と適切な対応
△	8%程度を目標にグリーン購入を継続
○	化学物質排出量の削減：2020年度までの中期環境目標(ウェブサイトで詳細報告)達成 に向けた取り組みの継続
○	現在進行中の廃水処理検討テーマは2015年度末に完了、以降は次のテーマへ挑戦
○	対前年比1%以上のエネルギー原単位改善を継続
○	グループ会社中長期重点課題制度の浸透とこれに基づく評価制度の実施
△	在庫量の適正化へ向け全社で取組、遊休不動産の計画的売却
△	反射フィルム(Freelux)を拡販
◎	ジェネリック抗がん薬の遅滞ない上市
○	マレーシア拠点の生産開始、中国・メキシコ・チェコ拠点における生産設備増強
◎	全社発表会のグローバル対応推進、発表会等による情報共有推進、若手教育プログラムの 計画的実施
○	新規に創設したイノベーション創出研究センターや各研究部署(グループ会社含む)と連携して、 継続的にコーポレート研究テーマを創出

◎：十分に目標を達成 ○：ほぼ目標を達成 △：実現に向け努力中 ×：目標未達

※1[SDS] Safety Data Sheet(化学物質安全性データシート) ※2[重大顧客クレーム、重大工程異常]損失額1,000万円以上、または当該責任者が重大と判断したもの  
※3[BEPS]Base Erosion and Profit Shifting(税源侵食と利益移転)

# CSR経営の考え方

日本化薬グループは、KAYAKU spirit「最良の製品を不断の進歩と良心の結合により社会に提供し続けること」を実現することによりすべてのステークホルダーの信頼に応えるCSR経営を行ってまいります。

アクションプラン 企業ビジョン、CSRを啓発する

2014年度の目標 教育研修の継続実施  
CSR関連プロジェクトの組織横断的運営  
会議・社内誌などによる啓発活動の継続

評価



## KAYAKU spirit とCSR経営

KAYAKU spirit「最良の製品を不断の進歩と良心の結合により社会に提供し続けること」は、日本化薬グループの企業ビジョンです。KAYAKU spiritは50年以上前に制定された社是を元にしており、わたしたちの中に息づくCSR経営の原点となる考え方です。また、KAYAKU spiritを実現するための行動規範として、「グループ行動※指針」「日本化薬グループ行動憲章・行動基準」を定めています。当社グループではKAYAKU spiritを実現させるための企業活動を行うことによって、すべてのステークホルダーの信頼に応えるCSR経営を実現してまいります。



※行動：どうの字を「働く」と記載する「行動」は、日本化薬グループ独自の言葉です。常にコスト意識をもち、付加価値を生み出すための活動のことをいいます。

## CSR経営実現のための取り組み

全事業をCSRの観点から判断できる体制とするため、社長を委員長とし、各事業を統括するすべての役付執行役員をメンバーとするCSR経営委員会を設定しています。また、事業戦略とCSR活動が一体となるように、中期事業計画と連動した中期CSRアクションプランを策定し、すべてのステークホルダーに公開するとともに、そのPDCA管理を実施しています。

日本化薬グループの全従業員がCSR経営の意義を理解し、一体となって目標に向かえるように、経営幹部や各事業場の責任者からのCSR意識の浸透に加え、年間数十回のCSR研修・コンプライアンス研修を行っています。また、組織横断的なCSRプロジェクトを運営し、全事業部門・各管理部門がCSR活動に参画できるような仕組みを採用しています。企業ビジョンやCSR経営を説明した冊子や携帯用カードは、グループ会社の公用語である6カ国語に翻訳し、全グループで共有するように努めるとともに、優秀な取り組みについては全グループで共有するようにしています。



企業ビジョンの掲示

### COLUMN 「かやくーま」を使ったKAYAKU spirit浸透活動

グローバルに展開している日本化薬グループのすべての従業員にKAYAKU spiritを親しみやすく身近に感じてもらうために、KAYAKU spirit浸透キャラクター「かやくーま」を作成しました。社内報で、各種CSR活動や企業ビジョン実践の模範的な活動を紹介するコーナーを設けておりますが、「かやくーま」を用いてビジュアル的にわかりやすく説明するようにしています。また、日常使用するメモやク

リアファイル、さらには会議室のデザインにも取り入れて、常に従業員の目に触れ、企業ビジョンを意識させるよう取り組んでいます。現在では、商標登録もを行い、日本化薬グループのキャラクターとして、新聞広告や工場祭のノベルティ等でも活躍しています。



浸透キャラクター「かやくーま」



# コーポレート・ガバナンス

日本化薬グループは、経営の透明性の確保が重要な課題であると認識し、自律的なガバナンス体制を整備し、コンプライアンスを企業活動における最優先事項と位置付けています。

アクションプラン コンプライアンスを啓発する

2014年度の目標 全従業員を対象にしたコンプライアンス研修の実施  
コンプライアンス アンケートの実施

評価



## コーポレート・ガバナンス

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方は、日本化薬グループが社会から信頼される企業であるために、株主・投資家の皆さまへのタイムリーかつ公正な情報開示、チェック機能強化による経営の透明性の確保が重要な課題であると認識し、自律的なガバナンスを整備しています。

コーポレート・ガバナンス体制は、取締役会の合議制による意思決定と監査役制度によるコーポレート・ガバナンスが経営機能を有効に発揮できるシステムであると判断しています。

2005年8月から経営の「意思決定」・「監督機能」と「業務執行機能」の役割を明確に分離し、それぞれの機能を強化して適切な意思決定と迅速な業務執行を行っています。また、経営責任および執行責任の明確化のため取締役と執行役員の任期を1年としています。

さらに2013年6月から社外取締役を選任しています。これにより経営の透明性を高めるとともに、コーポレート・ガバナンス体制のさらなる強化を図っています。

当社は監査役会設置会社で、社外監査役3名を含む5名の体制です。監査役が取締役会等の各種社内重要会議に出席するほか、内部監査部門と情報交換を通じ、独立した立場から取締役の職務執行の監視、監督を行っています。

## コンプライアンスの浸透と醸成

コンプライアンスは、日本化薬グループの企業活動における最優先課題と位置付け、2011年に「日本化薬グループ行動憲章・行動基準」を制定しました。コンプライアンスの浸透と醸成を図るため、「教育研修」や職場ごとに独自の「行動計画」を策定し、現場での具体的な活動を実施しています。年度を通じた活動結果を評価したうえで、継続的な啓発に取り組みました。

コンプライアンス推進活動は、10月を「コンプライアンス推進月間」とし「コンプライアンスアンケート」を実施しました。コンプライアンス推進に関する職場の課題を抽出したうえで、改善のコメントを含んだ報告書を各職場へフィードバックしています。職場ではこれをもとに次年度の行動計画を策定し、意識向上のためのPDCAを回しています。全体の結果は社内報「とらい」にて発表しました。

コンプライアンス教育研修は、情報セキュリティを主題とし、集合研修では、国内50回実施し2,899名が受講しました。また、集合研修に参加できない営業職向けには新たな取り組みとして、研修資料をDVDで配布し、個別研修は550名が受講しました。

海外グループ会社については、中国を中心として階層別の集合研修を延べ11回実施し、148名が受講しました。引き続き、海外のグループ会社と連携を取り、地域の文化・習慣などを考慮しながらコンプライアンス意識の浸透を図っていきます。

また、内部通報制度を制定し、「内部通報・相談窓口」を社内と外部に設置しています。引き続きコンプライアンス違反につながる事象を防止、早期に是正することに努めていきます。



### TOPICS

## 日本化薬グループのBCPへの取り組み

日本化薬のBCP\*マニュアルでは「目標期間内に事業を復旧する」考えのもと、各事業本部に対策本部を立上げ、重要業務の選定をし、復旧のための資源を集中配分しています。また一部の製品においては有事の際にも安定供給の実現を目指した管理体制としています。また速やかな事業復旧を目的としたBCP訓練を継続的に実施し、「絵に描いた餅」にならないような取り組みを実施しています。

2014年度は、「中国にあるグループ会社「化薬(湖州)安全器材有限公司」(KSH)が被災し操業が停止した。」というグローバルな想定で実施しました。このBCP訓練に社長はじめすべての役員が参加し、本社、姫路工場とKSHの3拠点の情報収集・共有をネットワーク上で連絡を取りながら生産調整・出荷対応を行い、対応案を策定することができました。訓練の結果は、依頼したコンサルタント会社から緊急時

の対応レベルが高いと評価されました。

今後、日本化薬のグループ会社BCPマニュアル作成の支援を行い、グループ全体での体制強化に努めていく予定です。



※ [BCP] Business Continuity Plan (事業継続計画)

# 日本化薬グループ会社のCSRコミットメント

## 中国

### その他事業

化薬(上海)管理有限公司(KSC)の役割は、①最良のサービスを中国グループ会社に提供し、事業発展に貢献する ②CSR経営の浸透 ③中国グループ会社の求心力になること、を掲げています。

今回のCSR活動の取り組みの一つとして、内部統制推進部と連携して「中国コンプライアンスの推進」「リスク管理の推進」です。具体的な取り組みとしてコンプライアンス専門の法律事務所の協力により、KSC 法務部が中心となり中国人従業員のためのコンプライアンス研修を行います。また、リスク管理は在上海日本国総領事館、JETROと連携を密にして関係子会社に情報を発信いたします。



化薬(上海)管理有限公司  
総経理  
谷口公一

## 中国

### 機能化学品事業

中国では、急速な経済発展に伴い環境問題など多くの課題が生じ、企業をとりまく環境は厳しさを増しています。こうした中で、事業を継続・発展させるためには、CSR経営が一層重要になります。化薬化工(無錫)有限公司では KAYAKU spirit の実現を目指し、CSR経営を行うべく、全従業員一人ひとりが行動憲章・行動基準に基づいて行動することが最重要と考えています。現地の文化・歴史・商習慣などを尊重しながらも、「みんなやっているから」ではなく、各人が確固たる倫理観を持って行動することによって、顧客の求める、広い意味で「高品質」な製品を提供し続けて社会に貢献してまいります。



化薬化工(無錫)有限公司  
総経理  
村田和幸



## 中国

### 機能化学品事業

現在中国では習近平国家主席指導の下、GDP至上主義を排し、住民所得や環境保護などの指標の設定と達成に取り組む方針転換がなされています。これらの変化に伴い、中国環境規制は規制強化と運用徹底が進められており、一部化学業界では原材料メーカーの操業規制や停止などの処置がとられ原材料供給問題が発生しています。

無錫先進化薬化工有限公司では、本年度新規の生物排水処理システムを導入し、規制強化へのさらなる対応を取るとともに、原材料メーカーとの関係強化により、製品の安定供給をCSRの重要課題と捉え活動を進めます。



無錫先進化薬化工有限公司  
総経理  
加藤芳則

## 日本

### 医薬事業

日本化薬フードテクノは群馬県高崎市に工場、研究所、本社を置き、従業員総数は110名、業態は鮮度保持剤「脱酸素剤」などを製造し、6営業所を拠点として食品会社などへ販売しております。日本化薬グループの一員として「最良の製品を不断の進歩と良心の結合により社会に提供し続けること」を実現することにより、お客様や社会への期待に応えていきます。「職場環境改善委員会」を活性化させ、従業員が働きやすい環境を整えることを基本として、地域社会との共生を目指しています。



日本化薬フードテクノ株式会社  
代表取締役社長  
望月千年

日本化薬グループは国内19社、海外20社の計39社で、世界9カ国で事業展開しています。

本冊子ではグループ会社8社のCSRコミットメントを掲載します。その他のグループ会社のCSRコミットメントは、ウェブサイトにて公開していますのであわせてご覧ください。

## 日本

### 機能化学品事業

厚和産業は主に厚狭工場の製造業務を請負っています。とりわけ重要な安全衛生への取り組みは体感研修機材を用い、危険を体感・疑似体験できる社員教育をさらに充実させる計画です。また応急手当やAED取扱い研修、地域消防団への支援を通じ有事には多少なりともお役に立てればと思っております。

毎年11月に厚狭工場と共催する「わっしょい!カヤク祭り」もお蔭様で地域イベントのひとつに定着しました。これからも一人ひとりが企業活動を通して、地域に貢献できることを目指してまいります。



厚和産業株式会社  
代表取締役社長  
内田和昭

## アメリカ

### 機能化学品事業

モクステックは、地域コミュニティに根ざしたCSR活動を行っています。具体的には、「ホームレス支援プログラム」への参加、「地域の大学支援プログラム (LEGO Robotics Tournaments)」への協力、「地域の小、中、高等学校の課外プログラム」への協力などを行っています。特に、次世代を担う地域の子どもの学習、課外活動を積極的に支援することにより、地域に根ざした会社であり続けるよう努力しています。



モクステック, Inc.  
President & CEO  
河村重幸

## 日本

### その他事業

和光都市開発は不動産賃貸業を営む会社です。埼玉県の和光市駅前に土地および6階建てのビルを有し、イトーヨーカ堂和光店にお貸ししています。また日本化薬向けに社宅2カ所、单身寮1カ所、さらに小児難病患者様向け通院用宿泊施設“あすなろの家”の建物をお貸ししています。“あすなろの家”を始め、多くの方が利用される施設を有していますので、安全かつ快適にお使いいただけるように設備修理・更新に努めています。



和光都市開発株式会社  
代表取締役社長  
福永誠規

## メキシコ

### セイフティシステムズ事業

カヤク セーフティシステムズ デ メキシコ (KSM) は創立8年目の会社ですが、従業員一同が **KAYAKU spirit** の達成を目指して、日々成長しています。KSMは顧客の声をよく聞き理解すること、いつも製品の改善を続けること、責任と誇りを持ち広い視野の文化を社内に創ること、組織と社会のメンバーとしての義務を果たすこと、の4項目をミッションとして地域社会に認められる企業を目指し活動していきます。



カヤク セーフティ システムズ  
デ メキシコ, S.A. de C.V.  
代表取締役社長  
川田喜承

- ★日本化薬本社 ●機能化学品事業関連 ●医薬事業関係  
●セイフティシステムズ事業関連 ●その他の事業関連

# 豊かな生活を目指した日本化薬グループの現在の製品および未来の技術や製品

日本化薬グループは“世界的すきま発想。”でニッチでも突出した技術で付加価値の高い製品を開発し、世界になくはない企業を目指しています。

**デジタルカメラ**  
微細カラーフィルタ用カラーレジスト  
ブラックマトリックス用樹脂

**有機半導体**  
フレキシブルディスプレイ  
ウェアラブルパソコン

**印刷材料**  
感熱顔色剤  
染料

**偏光サングラス**  
偏光素膜

**スマートフォン、タブレット**  
カラーレジスト用樹脂、カラーフィルタ用色素  
半導体封止材用エポキシ樹脂  
フラッシュLED封止用ハイブリッド樹脂  
液晶シール材、コート用樹脂、タッチパネル用接着剤

**プロジェクター**  
偏光フィルム

**色素増感太陽電池**  
カラフルでシースルーな太陽電池

**菓子**  
品質保持剤

**洋服**  
染料

**食品**  
健康食品原料

**衛生用品**  
ウエットクロス

**カーテンエアバッグ**  
インフレーター

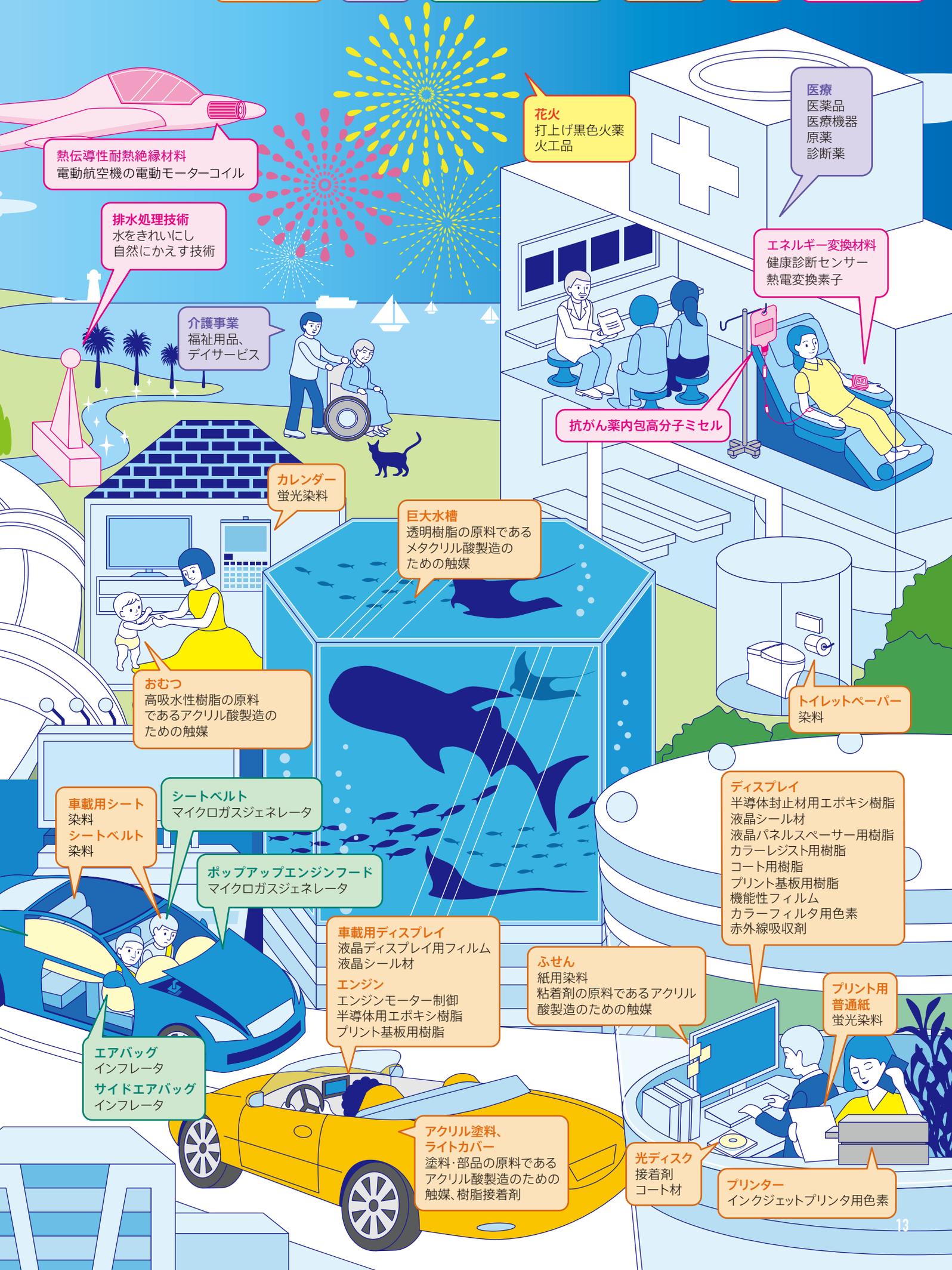
**バイオマス化学品**  
木から生まれたプラスチック

**ダンボール**  
染料

**除菌スプレー**  
エタノール製剤

**農業**  
殺虫剤、除草剤、  
土壌くん蒸剤、  
生物農薬

**ケーブル保護**  
防鼠剤  
害虫駆除  
防疫剤



**熱伝導性耐熱絶縁材料**  
電動航空機の電動モーターコイル

**排水処理技術**  
水をきれいにし  
自然にかえす技術

**介護事業**  
福祉用品、  
デイサービス

**カレンダー**  
蛍光染料

**おむつ**  
高吸水性樹脂の原料  
であるアクリル酸製造の  
ための触媒

**車載用シート**  
染料  
**シートベルト**  
染料

**シートベルト**  
マイクロガスジェネレータ

**ポップアップエンジンフード**  
マイクロガスジェネレータ

**車載用ディスプレイ**  
液晶ディスプレイ用フィルム  
液晶シール材  
**エンジン**  
エンジンモーター制御  
半導体用エポキシ樹脂  
プリント基板用樹脂

**エアバッグ**  
インフレーター  
**サイドエアバッグ**  
インフレーター

**アクリル塗料、**  
**ライトカー**  
塗料・部品の原料である  
アクリル酸製造のための  
触媒、樹脂接着剤

**花火**  
打上げ黒色火薬  
火工品

**医療**  
医薬品  
医療機器  
原薬  
診断薬

**エネルギー変換材料**  
健康診断センサー  
熱電変換素子

**抗がん薬内包高分子ミセル**

**トイレトペーパー**  
染料

**ディスプレイ**  
半導体封止材用エポキシ樹脂  
液晶シール材  
液晶パネルスペーサー用樹脂  
カラーレジスト用樹脂  
コート用樹脂  
プリント基板用樹脂  
機能性フィルム  
カラーフィルタ用色素  
赤外線吸収剤

**ふせん**  
紙用染料  
粘着剤の原料であるアクリル  
酸製造のための触媒

**プリント用**  
**普通紙**  
蛍光染料

**光ディスク**  
接着剤  
コート材

**プリンター**  
インクジェットプリンタ用色素

# 日本化薬グループの事業

日本化薬グループの社会的使命と、主な4つの事業をクローズアップし、代表的なCSRの取り組みをご紹介します。より詳細な情報はウェブサイトをご覧ください。

<http://www.nipponkayaku.co.jp/company/business/>

患者様に真に必要とされる医薬品や医療材料を信頼性の高い情報とともに医療機関へ提供することに努めています。

樹脂・色素・触媒・加工をコアに環境・省エネルギー分野で「熱と光を化学」して持続的に成長します。

## 医薬事業

生命と健康を守る

## 機能化学品事業

豊かな暮らしを支える

## セイフティシステムズ事業

火災技術を応用した自動車安全部品で世界の自動車の乗員と歩行者の安全と自動車社会の発展に貢献します。

「インテリジェントなケミカル製品」を開発・製造し、環境・安全に配慮しつつ社会に貢献します。

## アグロ事業

世界的な食糧需要増大に「安全で効果のある農薬」を提供します。

## CSR TOPICS

私たちの代表的な取り組みをご紹介します

### 機能化学品事業

環境・省エネ分野で「熱と光を化学」して社会に貢献できる製品に取り組んでいます

機能化学品事業は、樹脂・色素・触媒・加工をコアに環境・省エネルギー分野で「熱と光を化学」して、人に優しく社会に貢献できる製品の開発・提供に取り組んでいます。

2014年度、特定波長反射フィルム「Freelux」を開発しました。「Freelux」は、特定波長を任意に反射することができ、有機物でありながら金属蒸着膜と同様な鮮やかな金属光沢を表現することができます。また、特定波長をシャープに反射することができるために、高い透明性(無着色)を維持しながら、紫外線域から近赤外線域まで広範囲をカバーすることができます。

現在、眼に悪影響を及ぼす可能性がある紫外線、ブルーライト、近赤外線等を選択的にカットするためのレンズ用途への応用、遮熱フィルムとして車載・建材用途への展開が期待されています。



「Freelux」は、iOFT2014 国際眼鏡展に出展しました

### 医薬事業

医療従事者のパートナーとして患者様のクオリティ・オブ・ライフ向上に貢献します

日本化薬は、がん治療や自己免疫疾患治療の主要な役割を果たしている医薬品のバイオ後続品を積極的に開発しています。

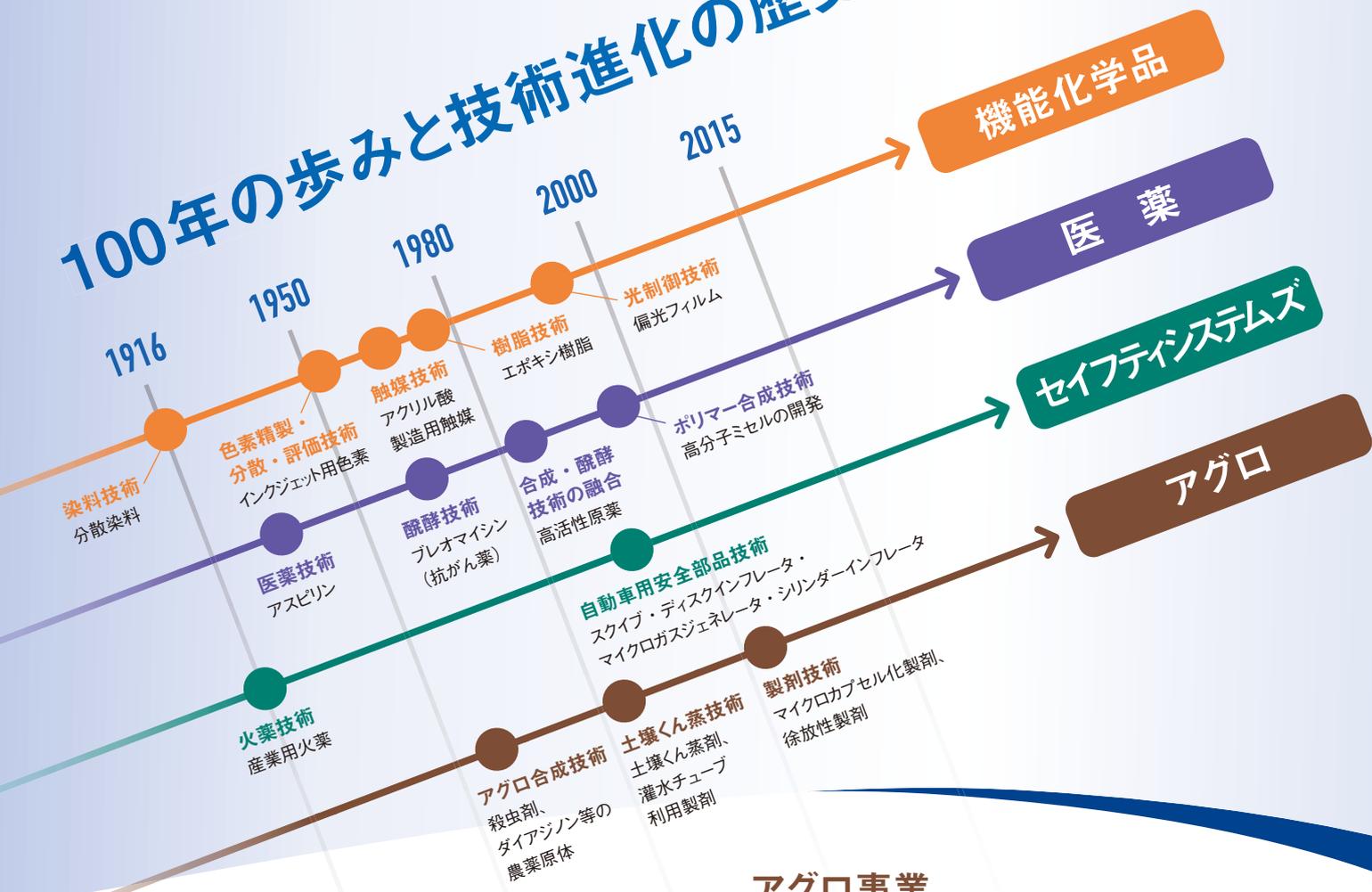
2013年に日本化薬初のバイオ後続品「フィルグラスチムBS」を上市し、2014年は日本初の抗体バイオ後続品「インフリキシマブBS」を上市しました。バイオ後続品を幅広く提供することで、「いつでも、どこでも、誰でも」より良い医療、質の高い医療を等しく受けられる社会を実現したいと考えています。

これからも、医療従事者のパートナーとして患者様のクオリティ・オブ・ライフ向上に貢献することを目指していきます。



日本化薬 医薬関係者向け情報サイト MINK Web

# 100年の歩みと技術進化の歴史



## セイフティシステムズ事業

### グローバル化への対応 現地生産による安定供給を実現します

いまや世界中の人々の生活に欠かすことのできない自動車。今後とも世界中でますます需要が増えていくと考えられています。

このようなクルマ社会の発展は同時に、これまで以上に自動車事故が発生するリスクも高まります。自動車の能動的・受動的安全技術は年々飛躍的な進歩を遂げており、近年ではエコ性能に加え、安全性能が自動車選定の動機付けの大きなポイントとなっています。

日本化薬は、従来から培ってきた火薬の技術を応用し、乗員保護のための衝突安全技術の要素の一つであるエアバッグ用インフレータ、シートベルトプリテンショナー用および歩行者頭部保護を目的としたポップアップフード用マイクロガスジェネレータを世界5拠点で生産し、必要とされる地域で、必要とされる数量を供給し、世界中の自動車の乗員の安全に貢献していきます。



自動車用安全部品

## アグロ事業

### 農薬の提供を通じて 世界の食糧需給に貢献します

世界的な人口増加による食糧需給問題や国内の食料自給率問題、また温暖化による雑草、病害虫による農産物被害が増加するなど農業を取り巻く環境が年々厳しくなる中で、安全・安心な農産物を安定的に生産し、市場に供給することが必要とされています。

アグロ事業部では、独自の目線から保有技術を工夫・活用しながら、さまざまな農薬を製品として提供しております。例えば、顆粒状にし、使用時の利便性を向上させた「リーフガード顆粒水和剤」や、田植え直後や直播栽培の若い稲を加害するスクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)を長期間の間、加害を食い止める徐放化製剤の「スクミハンター」が挙げられます。

このように、農産物生産現場のニーズを汲み取り、さまざまな技術を駆使しながら、新たな農薬を開発・上市して農産物の安定生産と市場への供給に貢献しております。



左：リーフガード  
右：スクミハンター

# 社会的責任を果たすCSR活動

日本化薬グループでは、お客様に最良の製品を提供するために、製品やサービスの安全性・信頼性に配慮しています。また、ステークホルダーのひとつである地域の皆さまとコミュニケーション活動を活発に行い、地域に根付いた会社でありたいと願っています。

## お客様への取り組み

**アクションプラン** 医薬品情報センターの充実

**2014 年度の目標** 「日本化薬と医療機関等との関係の透明性に関する指針」をウェブサイトで公開  
 農薬安全使用のために現地指導を継続実施

評価



## お取引先・株主への取り組み

**アクションプラン** 適時適切な情報開示を行う  
 CSR 調達の推進

**2014 年度の目標** 原材料および間接材のグリーン調達実績の集計を実施、CSR 調達の運用の準備  
 適時適切な決算説明会・取材対応・情報開示により株主の信頼を獲得

評価



## お客様への取り組み

### TOPIC ダイアジノンのパッケージ変更

アグロ事業部の主力製品である「ダイアジノン粒剤5」が販売開始から半世紀を迎えました。これを機に、これまで紙袋であった包装を、ラミネート袋へ変更しました。これにより、見栄えのよい外観に加え、適用作物や害虫の適用内容表記が見やすくなりました。また袋のバリア性が向上しました。

これからも土壌害虫を中心に幅広い害虫と作物に適用を持っているダイアジノン粒剤がより身近になるように努めてまいります。



適用作物をデザインした「ダイアジノン粒剤5」

## お取引先への取り組み

### TOPIC 購買説明会の開催

セーフティシステムズ事業本部では、日頃お世話になっている原材料供給協力会社の皆さまを対象に、年1回、購買説明会を実施しています。これは、当事業本部の当年度業績見込みの説明、次年度以降の事業計画、生産体制の現況、開発計画、今後数年間の事業ビジョンを説明させていただき、協力会社の皆さまの事業計画に資する情報の一つとしていただくことを目的としています。

めまぐるしく変化する国内・国際情勢、原料相場、為替変動に即応しながら、顧客に遅滞なく高品質・低コストの製品を供給し続けなければならない自動車産業のサプライチェーンを担う協力会社の皆さま、および当社にとって貴重な情報交換の場とすべく、可能な限り協力会社の皆さまにとって有益な情報を提供させていただくことを心掛けています。

毎年、約80社・100名を超える皆さまにご参加をいただき、当社の各部門と情報交換を行っていただいておりますが、当事業のグローバル化の進展に伴い、年々海外の協力会社の皆さまのご参加が増加している状況です。



### 主な取り組み

- ・くすりの相談窓口 (医薬品情報センター)
- ・農薬の使用方法的指導
- ・各種展示会

お客様

お取引先

### 主な取り組み

- ・CSR調達
- ・日本化薬と医療機関等との関係の透明性に関する指針

### 主な取り組み

- ・株主総会
- ・株主通信
- ・投資家向け説明会
- ・投資家向け個別ミーティング
- ・アニュアルレポート

詳細はウェブサイトをご覧ください。

<http://www.nipponkayaku.co.jp/csr/social/persons.html>

日本化薬グループ  
KAYAKU spirit

CSR 経営

株主

### 主な取り組み

- ・ピンクリボン活動
- ・難病とたたかう子どもと家族の滞在施設「あすなるの家」
- ・工場祭
- ・懇談会
- ・地域清掃
- ・公開講座
- ・各種寄付

社会

従業員

### 主な取り組み

- ・各種研修  
(コンプライアンス、CSR、メンタルヘルス、人事、各事業部)
- ・各種アンケート(意識調査、コンプライアンス)
- ・社内報(グループ報、単体報)
- ・方針TV放映
- ・社内通報制度(社内、社外窓口)

詳細は18,19ページをご覧ください。

## 社会への取り組み

### TOPIC 情報サイト「リウマチら・ら・ら」の公開

「リウマチら・ら・ら」はリウマチ患者様のための情報提供サイトとして2015年2月に公開しました。「リウマチ患者様の日常に寄り添い、ここから支える存在になりたい」そんな思いを込めサイトを作成しました。



本サイトの特長は、リウマチ患者様も使いやすい、やさしい(アイコンを大きくタッチしやすい)デザインでスマートフォンにも対応していること。内容面では、患者様が知りたい情報を可能な限り網羅し、リウマチの原因や症状、治療について、気になる医療費やケア、病院検索などさまざまなコンテンツを掲載しています。

また、リウマチ治療時に利用可能な高額療養費制度についても掲載しており、高額療養費のシミュレーションを行うことも可能です。さらに、リウマチ専門医の監修による「リウマチ体操」動画はリウマチの患者様が好きなときに自宅でゆっくり楽しく体操ができます。

“Feeling Happy”とよつ葉のクローバーは日本化薬のイムノロジー(免疫)領域のイメージロゴです。よつ葉のクローバーのように患者様に寄り添い、ここから支える存在になりたい。病気の治療も、より良い日々の暮らしも、あたらしい視点で支えます。患者様、一人ひとりの“Feeling Happy”のために。



リウマチら・ら URL  
<https://rheuma.jp>

## 社会への取り組み

### アクションプラン

地域社会とのコミュニケーションを行う

### 2014年度の目標

ピンクリボン活動の継続  
「あすなるの家」の継続的な管理運営

評価



### TOPIC インデットセイフティシステムズ社(ISS) 交通安全子ども自転車大会への協賛

自転車はヨーロッパでは人気のスポーツです。チェコでも休日などに本格的なロードバイクに興じたり、専用自転車道路でサイクリングを楽しむ家族連れをよく見かけます。最近、日本では、自転車のマナーについてニュースに



なりますが、ヨーロッパでは自転車も右左折時に手信号を出すなど、交通ルールを守って運転することが一般に浸透しています。

チェコでは運輸局の中にあるBESIP(チェコ語で交通安全という意味)という団体が、正しい自転車の交通ルールを学ぶために、自転車の交通安全大会を警察と協力して毎年チェコ全国で開催しています。この交通安全大会に、各学校の代表者4名(男子2名、女子2名)の10歳から16歳までの子どもたちが参加し、“道路標識の知識、自転車の運転技術、応急救護などの知識・技術”を競います。各地域での交通安全大会の優勝者は全国大会に出場し、さらにその優勝者はヨーロッパ選手権に出場することになっています。

ISSは、自動車安全部品を製造する会社として、子どもたちに交通ルールの知識を深めてもらい、安全に楽しくサイクリングしてもらうように2013年から地元のズリーン州の大会に協賛しています。



# 従業員への取り組み

企業の主体は“人”。日本化薬グループは、従業員が安心して働ける環境の中で一人ひとりが持てる能力を発揮し、仕事を通じて社会に貢献することで働きがいを感じる事が大切だと考えています。

アクションプラン 多様な人材の活用

2014 年度の目標 ダイバーシティの拡大  
メンタルヘルス研修実施

評価



## グループ管理本部長メッセージ

当社は KAYAKU spirit の実現を目指し、その行動主体である社員全員が自信と誇りを持ってそれぞれの役割と責任を果たしていけるよう、さまざまな制度の改革に努めてきました。年齢や性別、学歴にこだわらない職務配置と処遇を可能にし



グループ管理本部長  
平尾幸

た「ポジションクラス制度（職務等級制度）」は導入後すでに16年目を迎えています。また性別に関係なく自発的にチャレンジできる管理職層への登用システムにより、女性の昇格者も年々増加しています。さらに導入時から継続就業を希望する定年到達者のほぼ100%を再雇用してきた「シニアパートナー制度」や養護学校とタイアップして進めている障がい者雇用など、ダイバーシティの推進にも積

極的に取り組んでいます。一方、事業のグローバル化はますます加速しており、それに伴って駐在員の赴任前・後教育の実施はもちろんのこと、現地スタッフの計画的な研修も進めています。

今後も環境の変化に柔軟な対応ができるよう、これまでの常識や慣習にとらわれることなく、新たな発想で体制の整備に取り組んでいきます。

### 男女共同参画

- 仕事と育児・介護の両立支援
- 次世代育成支援対策

## 男女共同参画のための制度の充実

男女共同参画のために、社内制度の拡充並びに制度活用の促進に取り組んでいます。次世代育成支援対策では、従来より育児休職制度をはじめ、法を上回る内容の諸制度を導入し、取り組んでいます。



### 「特別有給休暇制度」の充実

2年間、取得をしなければ有効期限が切れる年次有給休暇を積み立て、特定の理由があれば使えるようにする「特別有給休暇制度」など、従業員のワーク・ライフ・バランスのための支援をしています。取得にあたり煩雑な手続きが必要なものではなく、用途によって、その事実を証明できるものがあれば申請できるなど、利用しやすい制度としています。また、一度取得した場合でも、再び限度日数まで積み立てることができるなど、従業員の利用しやすさを第一に考えています。

### ●特別有給休暇制度

用途	充当日数
私傷病のための連続4日以上の療養またはリハビリテーション、アフターケアのための通院（医師の診断書の期間内）	最大60日
2等親以内の親族、おじ、お婆の介護	45日
研修やボランティア活動に参加	30日
日本化薬カフェテリアプランのアクティブポイント使用に伴う休暇	5日
未就学児童の検診、予防接種のため休暇を必要とする場合	5日
不妊治療のために必要とする場合	60日
育児休職に充当する場合	10日
子ども看護休暇への充当	10日

# ダイバーシティの推進

## 女性MRの活躍

当社は、1969年から長年にわたり抗がん薬を手がけてきています。現在では、日本で一番多くの抗がん薬を扱い、医療機関に安全性や有効性の情報を提供していますが、その役目を担っているのが、MR\*です。MRは「人の命に関わる製品をお届けする」という社会的使命感と、しっかりとした医学・薬学・製品知識、この2つを併せ持つ人材であることが重要ですが、当社MRの中でもより専門性を高めた「がん専門MR」に女性が認定されるなど、今まで以上に女性が活躍できる職種だと考えています。私は医薬研修室長として、日々MRのレベルアップを図り、医療関係者のよきパートナーを育成するべく、努力しています。もちろん、研修では男性女性の区別なく指導していますが、これは女性にも「得意先から信頼されるMRとしての活躍のみならず、将来のリーダーとしても育てほしい」との切なる願いからです。「女性が働きやすい環境の実現、女性の活躍」はダイバーシティの実現につながり、組織の能力を最大限発揮できると考えています。

※【MR】 Medical Representative  
(医薬情報担当者)



医薬事業本部 営業本部 医薬研修室長  
青野雅子

## ダイバーシティの推進

- 女性管理職 8%目標
- 障がい者雇用 2%達成
- 社員のグローバル化
- 高齢者雇用制度の充実
- 人権の尊重

## ワーク・ライフ・バランス

- 社員の意識改革・風土づくり
- 次世代育成支援対策

## グローバルな人材の活躍

日本化薬のチェコにある子会社のISSに勤めていた10数年を振り返ってみると、現地社会の発展への貢献を考慮しながら、出資先の各国の文化、風土、人権に対する忠実なリスペクトを戦略判断や日常ルーチンに自然に入れこみ、日本化薬のCSR経営が実践されていることを実感できました。

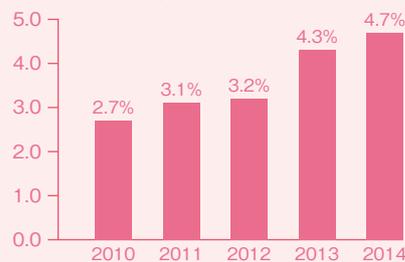
本社の勤務になってから、ダイバーシティ、オープンマインド性を積極的に推進している職場で仕事ができ、非常に喜ばしく思いました。仕事のやりやすい環境がとても大事ですが、安心して会社のために力を発揮するには、外国におかれている家族へのサポートが不可欠です。サポートとは、日本の社会、文化にできるだけ浸透し違和感なく喜びが多い生活を送ることができるための条件をつくりあげることだと思います。

これから会社が発展していく中で、本社や各事業所での外国人採用や研修生受け入れが多くなることには間違いありません。異なる国の人たちが同じ職場で同じ目的に向かい毎日交流すれば、お互いに得るものは多く、失うものは何もないと確信しています。日本化薬の社名に発祥地の日本という字が入っていますが、ますます世界社会の一員としての存在感を高めているNK Groupで働けることは、とても幸せです。



セイフェティシステムズ事業本部 企画部  
ヤロシャク パベル

## DATA 女性管理職比率の推移



## ワーク・ライフ・バランスの充実

日本化薬グループは、コンプライアンスやメンタルヘルスの観点から、労働時間の適正な把握、状況に応じた対応を行い、労使協力して労働時間管理の徹底に取り組んでいます。さらに、ワーク・ライフ・バランスの充実という観点から、従業員の所定外労働の削減や、有給休暇の取得率向上を目指しています。実現するためには、業務生産性の向上と付加価値創造に向けた社員の時間管理に対する意識改革(職場風土)が重要であると考えています。

狭工場、化薬(湖州)安全器材有限公司においても会社見学会を開催しました。



## 日本化薬の次世代育成支援対策

従業員の家族が従業員の働いているところを実際に見学できる「お子様のための本会社見学会」を実施しました。

また、東京事業区、鹿島工場、厚狭工場、カヤク・ジャパン(株)厚

DATA

日本化薬の次世代育成支援対策の行動計画と達成状況

<http://www.nipponkayaku.co.jp/csr/social/employee.html>



# 環境安全衛生品質マネジメント

日本化薬グループは、「環境・安全・品質」をあらゆる経営課題に優先し、グループ全体で環境負荷低減に取り組んでいます。より詳細な情報はウェブサイトをご覧ください。 <http://www.nipponkayaku.co.jp/csr/environment/>

## アクションプラン

安全な職場環境を実現する

## 2014年度の目標

重大事故災害0件、休業災害0件  
無傷害事故0件

評価



## 生産技術本部長メッセージ



生産技術本部長  
大抜隆雄

日本化薬グループは化学技術を基盤として発展し、いまや多種多様な製品の開発・製造を行っています。市場の要求を満たすため、これまで長年にわたって培った技術や最新の知見を駆使して高品質な製品を安定供給すべく日々取り組んできました。

安全操業は、個々の従事者の自覚とそれを支えるシステムの充実が重要との認識に立ち、製造従事者の世代交

代および製造所のグローバル展開に際する安全操業体制の確立のため、教育やフォローアップに従来以上に力を入れています。

CO<sub>2</sub>排出削減、リサイクル率の向上、廃棄物低減などの環境対策については、規制への対応はもとより、将来の事業継続性を維持するためにも必要な地球環境の保全を目指し、製造工程や生産規模に適した技術的なベストミックスを確立すべく取り組んでいます。

今後もすべてのステークホルダーの満足を得るため、品質の維持向上とともにレスポンス・ケア活動を続けてまいります。

## 日本化薬グループの環境安全衛生

グループ各社が、「安全をすべてに優先させる」取り組みを共通で進め、日本国内の環境安全関連の法令遵守、環境・安全の事故災害未然防止だけでなく、海外現地の法令対応、グループ全体の環境・安全事故の未然防止を図ること、また、KAYAKU spiritの実現に向け、「環境と安全と品質に関する私たちの宣言」に沿って日本化薬グループ会社全員で活動をともにするため、2014年度に初めて日本化薬グループの環境安全衛生方針を掲げ取り組みました。

2015年度はこの主旨を継続し、さらに方針名称も含めてレスポンス・ケアの精神を反映させた次の方針をグループ全体で確認しました。

### 日本化薬グループ 2015年度レスポンス・ケア（環境安全衛生）方針

レスポンス・ケア精神及び日本化薬グループの「環境と安全と品質に関する私たちの宣言」に沿って日本化薬グループ全員で取り組む中で、「安全をすべてに優先させる」ことを基本に活動を行う。

#### ①「事故災害ゼロ」へ向けた取り組みの推進

リスクアセスメント、KYT・KYK（危険予知訓練・活動）等の他、各国、各社の工夫を凝らした安全衛生活動を進め、事故災害の未然防止を図る

#### ②地球温暖化防止と環境負荷低減に向けた取り組みの推進

各国、各社にあった目標を掲げ、環境にやさしい会社を目指す

#### ③化学物質管理の充実

SDSの活用、GHS対応等により化学物質の危険有害性を正しく把握し、適正な管理を推進する

## 環境・安全・品質に対する取り組み

環境安全衛生の強化取り組みは、事故災害の未然防止対応、環境目標の達成、自然災害への事前対応、廃水処理技術の開発と向上推進、省エネルギー活動、健康づくりなどです。さらに、ここ数年来の化学企業の大きな事故災害に鑑み、安全教育体系の整備を図り、全社統一の安全教育を実施するとともに、非常作業を含む潜在リスクの徹底的洗い出しにより事故災害の未然防止に取り組まれました。

品質では、品質管理技術力の向上を目指した教育として、統計解析手法の実践的な研修「Field Data解析～おもしろ体得塾～」の実施や外部講習への派遣、「内部監査員教育」を実施しました。この他に「品質改善事例集」を発行し、品質改善手法の普及を進めました。また、顧客苦情および品質工程異常の低減の取り組みとして、再発防止策の強化のために「なぜなぜ分析推進チーム」を結成し、当社版「なぜなぜ分析マニュアル」を作成し、これをもとに各職場で展開しました。



5S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）教育研修

# エネルギー・マテリアル・バランス

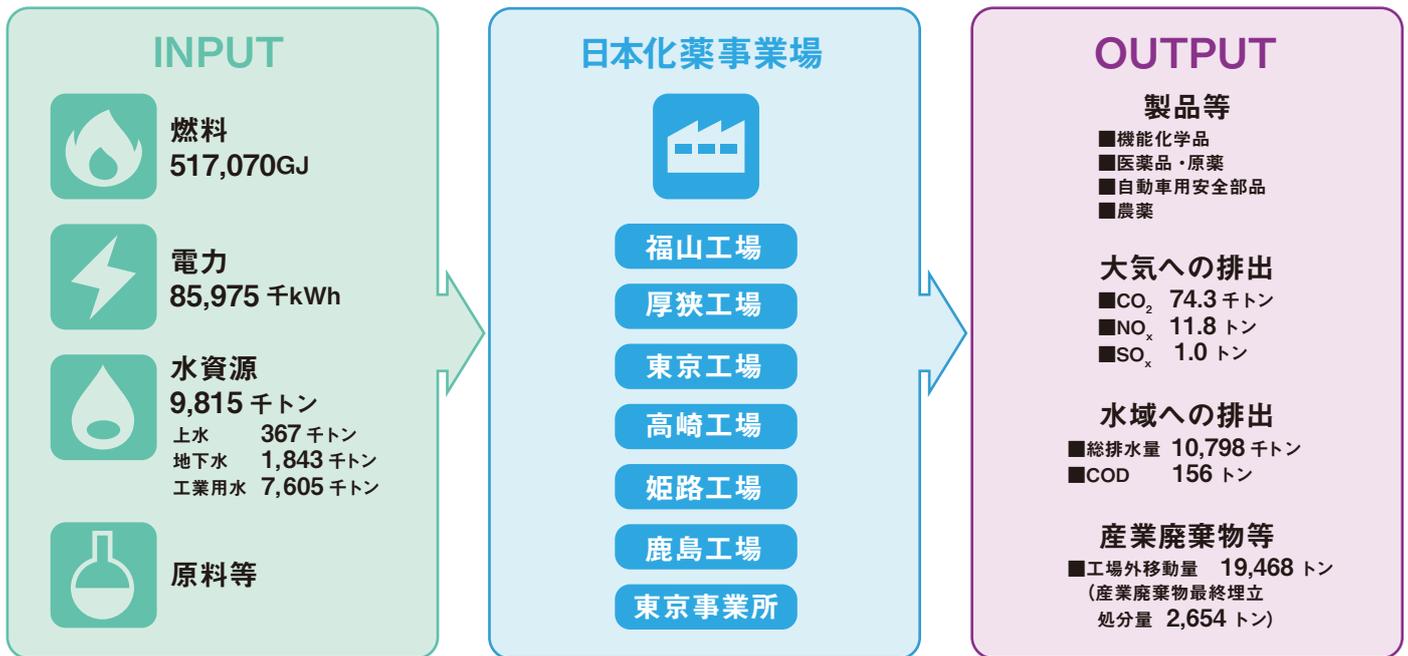
2020年度までの中期環境目標達成に向けた取り組みを実施しています。報告対象組織は日本化薬のみです。

**アクションプラン** 化学物質排出量の削減  
廃棄物の発生量の抑制  
地球温暖化を防止



**2014年度の目標** 中期環境目標の実現

## 事業活動と環境負荷の全体像



## 中期環境目標 (2011~2020年度)

分野	項目	2020年度 目標値	2014年度実績	内容
化学物質 排出量削減	VOC <sup>*1</sup> 排出量	45トン以下	49.2トン	前年度と比較して9.7%減となりました。
	COD <sup>*2</sup> 排出量	180トン以下	155.9 トン	前年度と比較して53.7%増となりました。今年度、福山工場の製品構成が変わって、COD 負荷の高い製品を多く製造したためです。
地球温暖化防止	エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量 <sup>*3</sup> (生産部門+業務部門)	3.8%以上削減	74.3千トン	前年度と比較して2.2%減となっています。2005年度比では10.0%減となっています。
廃棄物削減	廃棄物発生量	30,000トン以下	21,830トン	前年度と比較して5.9%減となりました。
	リサイクル率	70%以上	73.5%	前年度と比較して1.8%増となりました。前年度に引き続きリサイクル率の高い産廃業者への排出を増やしています。
	ゼロエミッション率 <sup>*4</sup>	3%以下	12.2%	前年度と同じ比率となり目標と大きく乖離をしています。今年度も福山工場でのスポット的な廃液汚泥処理が発生したためです。

※1 【VOC】 Volatile Organic Compounds(揮発性有機化学物質)。ただし、集計には政令で報告対象となっている化学物質以外に反応で副生する化学物質等、大気中に放出されるすべての化学物質を含めて管理しています。

※2 【COD】 Chemical Oxygen Demand(化学的酸素要求量)。水中の物質を酸化するために必要とする酸素量で、代表的な水質の指標のひとつ。

※3 【エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量】 2005年度(82.6千トン)を基準としています。

※4 【ゼロエミッション率】 日本化薬では廃棄物発生量全体に対する内部および外部埋立量の割合として定義しています。

# 環境・安全・品質に関する 日本化薬グループ会社の活動事例

環境安全、安全衛生の確保および品質保証の維持・向上に努めるため、組織的な活動を行っています。

## 化薬(湖州)安全器材有限公司

### 自動車業界向け品質マネジメント規格「ISO9001-TS16949」認証を取得しました

化薬(湖州)安全器材有限公司(KSH)は、2006年に設立した自動車安全部品を製造している中国にある日本化薬グループの会社です。

KSHでは、人の命を預かる部品を製造しているという認識のもと品質をさらに安定させ、顧客の要求事項を満たすため2014年5月に「TS16949」認証を取得しました。TS16949とは、ISO9001中の自動車部品のグローバル調達基準を満たす自動車業界向けの品質マネジメントシステム規格です。

KSHでは、2011年からシステムについての社内勉強会(全従業員対象)を始めました。2年間の準備期間を経て、2013年5月か

ら審査機関による教育を開始し、32人の内部審査員を育成しました。そして、2013年12月の第1回目監査、2014年3月の最終監査を経て、2014年5月無事認証取得に至りました。監査の中では、指摘事項・注意事項があり、最終監査は3日間にわたる厳しいものでしたが、全社員の「必ずTS認証を取る」という強い決意により、達成できました。

これにより、自動車安全部品製造会



ISO9001-TS16949

社として、世界で競争する基盤づくりができスタート地点に立ちました。今後は、さらに「いい会社、強い会社」を目指し、ISO14001(環境マネジメントシステム)、OHSAS 18001(労働安全衛生マネジメントシステム)の取得を目指します。



ISOの監査風景

## 無錫先進化薬化工有限公司

### 職業病予防知識普及のための審査会で優秀団体賞を獲得しました

中国無錫にある無錫先進化薬化工有限公司(WAC)は、染料の製造・販売を行っています。

WACは、2015年1月、国家安全監管総局と全国総工会が主催した全国職業病防治知識の審査会で優秀団体賞を受賞しました。この審査会は、全国102,293団体、800万人の従業員参加中わずか350団体が受賞し、受賞団体のほとんどは、地方政府の労働安全関連部署で、無錫市の2団体中一般企業での受賞はWACのみでした。

審査会では、国が定める職業病予防の要求事項に関する実施状況の報告書の審査と国が準備した職業病予防知識に関する設問

に対して、インターネットや書面で、従業員による回答結果をもとに審査されました。

WACの活動は、日頃から職業病要因の洗い出しと申告、環境測定による実態把握と報告、設備の適正化による予防強化、危険要因毎の従業員への報告、劇毒品の管理強化を行い、そして、従業員の健康診断を適切に実施しており、これらの努力が評価された結果です。

今後も環境に優しいだけでなく、働く従業員の労働環境にも優しい会社を目指し、改善活動を継続していきます。



審査会での優秀団体賞獲得

## グループ概要 (2015年3月末現在)

### ヨーロッパ

Dejima Tech B.V.  
Dejima Optical Films B.V.  
Euro Nippon Kayaku GmbH  
INDET SAFETY SYSTEMS a.s.

### 中国

無錫宝来光学科技有限公司  
Polatechno(Hong Kong) Co.,Ltd.  
無錫先進化学化工有限公司  
化学化工(無錫)有限公司  
招遠先進化学化工有限公司  
上海化耀国际贸易有限公司  
化学(湖州)安全器材有限公司  
化学(上海)管理有限公司

### 韓国

Nippon Kayaku Korea Co.,Ltd.

### 台湾

台湾日化股份有限公司

### マレーシア

Kayaku Safety Systems Malaysia Sdn.Bhd.

### アメリカ

MicroChem Corp.  
Moxtek, Inc.  
NIPPON KAYAKU AMERICA, INC.  
THE GILMORE ROAD PROPERTY, LLC

### メキシコ

Kayaku Safety Systems de Mexico,  
S.A. de C.V.

### 日本

株式会社ボラテクノ  
株式会社日本化学福山  
株式会社日本化学東京  
株式会社ニッカファインテクノ  
日本化学フードテクノ株式会社  
株式会社TDサポート  
日本化学メディカルケア株式会社  
株式会社ナック  
株式会社西港自動車学校  
有限会社YMKサービス  
和光都市開発株式会社

株式会社ニコス  
株式会社日本人材開発医学研究所  
株式会社沖浦ゴルフセンター  
厚和産業株式会社  
群南産業株式会社

### ● 持分法適用会社

化学アクゾ株式会社  
カヤク・ジャパン株式会社  
三光化学工業株式会社

## 会社概要

会社名	日本化学株式会社
設立	1916年(大正5年)6月5日
資本金	149億3千2百万円
本社所在地	東京都千代田区丸の内二丁目1番1号
電話番号	03-6731-5200(代)
従業員数	単体1,858名 連結5,165名
グループ会社	子会社36社 持分法適用会社3社
決算期	3月31日

## 主な事業内容

機能化学品	機能性材料、デジタル印刷材料、色材、触媒
医薬	医療用医薬品、医療機器・医療材料、医薬原薬・中間体、診断薬、食品・食品添加物、食品品質保持剤、特定保健用食品、介護事業
セイフティシステムズ	自動車用安全部品
その他	アグリ、不動産事業

## 財務関連数値 (2015年3月末現在)

### ■ 関連数値

売上高 **1,618億6千1百万円**

経常利益 **251億6千2百万円**

研究開発費 **129億4千2百万円**

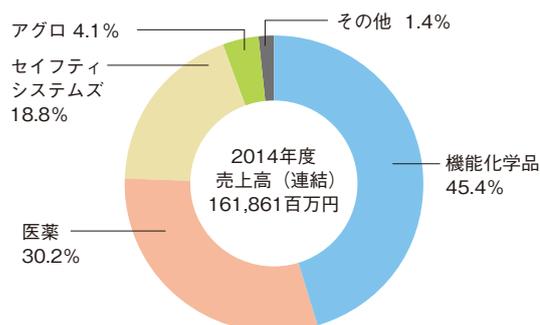
納税額 **83億5千7百万円**

### ■ 決算資料

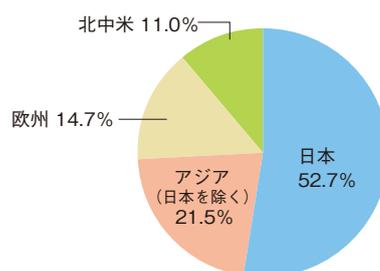
詳細はウェブサイトをご覧ください。

<http://www.nipponkayaku.co.jp/ir/library/>

### ■ 事業別売上比率 (連結)



### ■ 地域別従業員比率



※従業員数は就業人員であり、臨時従業員を含んでいません。  
※対象は日本化学本体と連結子会社27社です。

# 日本化薬株式会社

〒100-0005

東京都千代田区丸の内二丁目1番1号

TEL: 03-6731-5200 (大代表)

<http://www.nipponkayaku.co.jp>

2015年7月発行



この印刷物は環境に配慮し、FSC™ 認証林および管理された森林からの製品である「FSC™ 認証紙」、石油系溶剤を100%植物油成分に置き換えたVOCフリーの印刷インキ、印刷工程で有害な廃液を排出しない「水なし印刷方式」を採用しています。